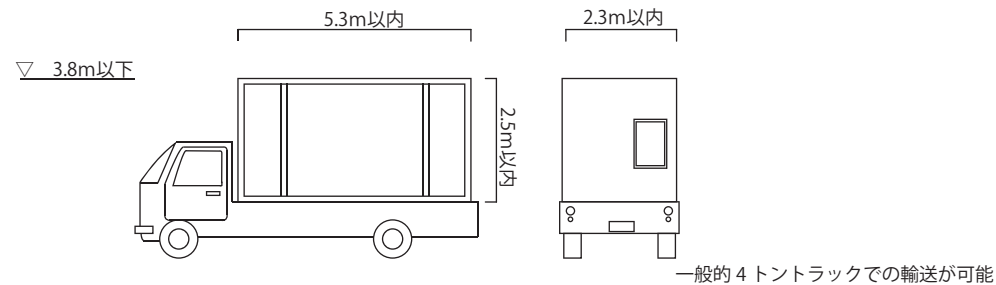


愛媛県産材を使った仮設・本設住宅

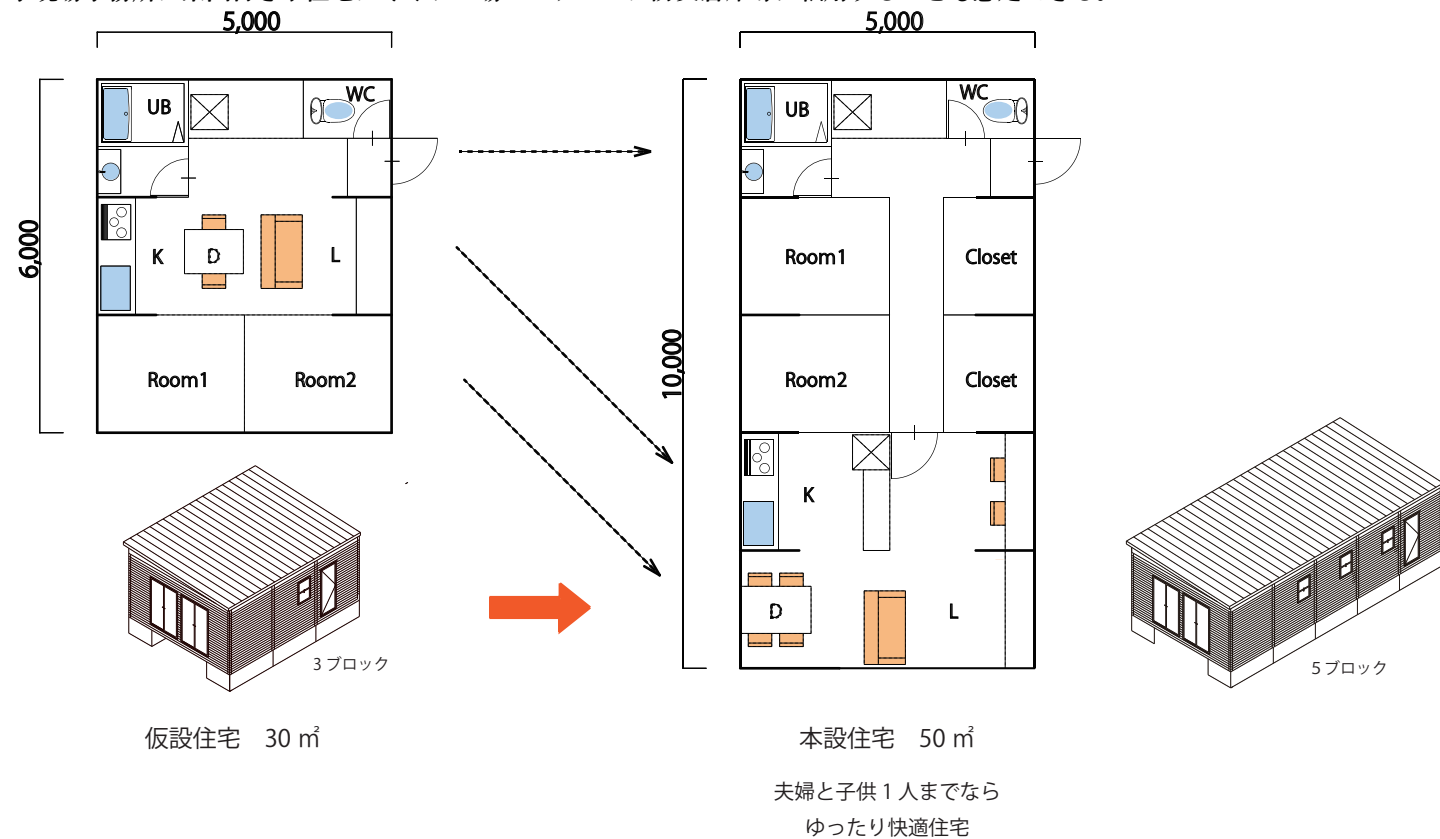
えひめ木テナーハウス EHIME MOKUTAINER HOUSE

愛媛県産の(杉・桧)を使用した 4トントラックで運べる大きさのコンテナ型の仮設兼本設住宅。
 今後発生が危惧される東南海地震等大災害時に仮設住宅として。その後、本設としてそのまま暮らせるよう
 増築等(再建費用助成の範囲内)により、「箱」の数を増やし、長く暮らせる住宅の提案と試作を行う。

平面構成2m×5m高さ2.5m、4トントラックに積載できる大きさ(重量は3t以内)を基本形として、3ブロックを
 連結したものを仮設住宅のベースモデル(30㎡)とする。
 大家族向け仮設住宅ならば、建設時点で4ブロック、5ブロックと連結し、寝室の数を増やすことも可能。



住宅から元の自宅敷地や他の住宅用地に数日で基礎ごと移設再建築でき、耐用年数の長い住まいとなるように計画する。
 被災者の住宅として使用されなくなった「役目の終わった仮設住宅」は、他の被災者等が安価で購入し、より広く増設して色
 々な用途へ転用することが可能となる。
 工事現場事務所、菜園付き小住宅、キャンプ場のコテージ、防災倉庫等に転用することも想定できる。



えひめ木テナーの構成

試作によって製作、組み立て、つり上げ、接続、分離、再接続に適した構成をまとめるため、計画時点での設定

基礎の計画(設定)

基礎はプレキャストコンクリートとし、全て平面形1.0×2.0m、高さ0.7mの「コの字型」のものに統一し、
 建設現場から離れた、PC工場や生コン工場の敷地でも製作、仮設住宅建設地に運搬できるよう計画、被災地で鉄筋、
 型枠作業を行う必要がない製作が可能となるよう設定する。

基本フレームの構成(設定)

製作のスピード、効率、運搬つり上げ時の変形を考慮し、土台(桧105×180)
 柱(杉または桧105×105)、梁(杉または桧105×180)で構成する。
 必要箇所に筋交い、又は合板による耐力壁を設ける。

内装の構成(設定)

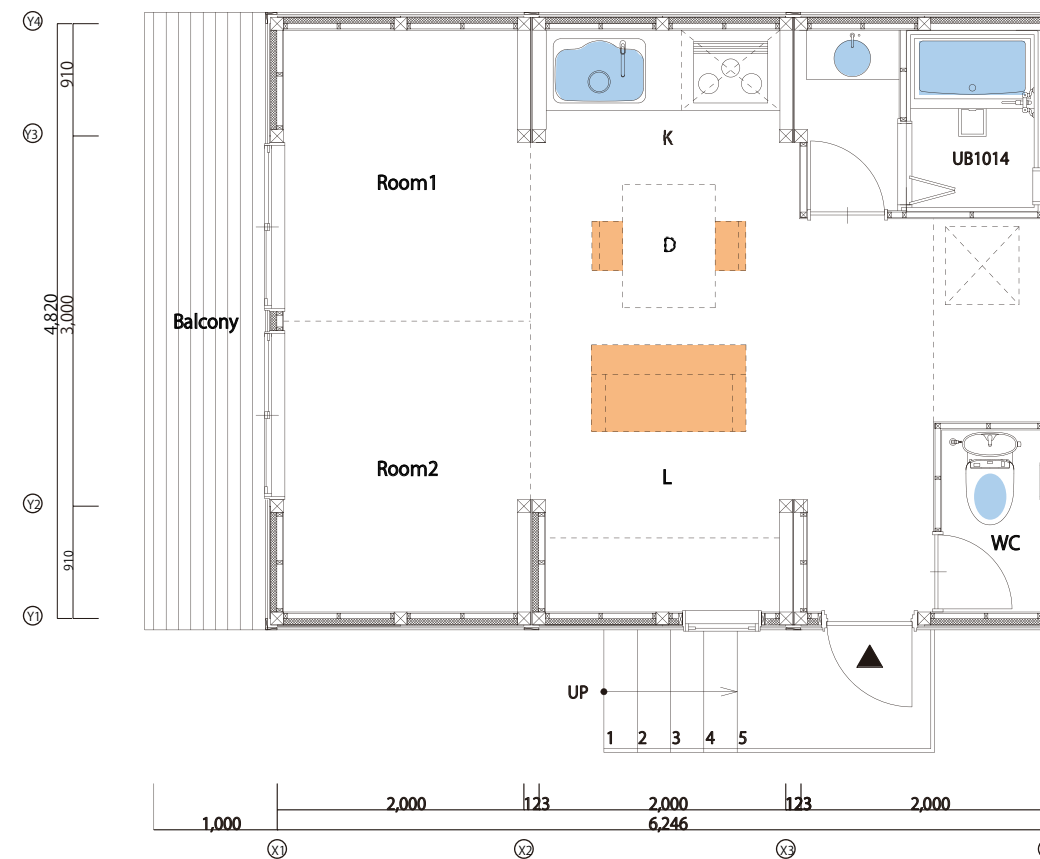
床:愛媛杉材厚30mm、根太レス工法を採用
 壁:断熱材ボード40mmの室内側に間伐材を使用した板張り状の壁材を建てこみ、作業を簡略化し、かつ入居者による棚などの取
 り付けが容易な計画とする。
 天井:間伐材を井桁に組み、断熱材50mmをはめ込んだものをパネル状にして取り付け

外装(設定)

壁材:金属パネル、窯業系サイディング、焼杉などが採用可能
 防火・準防火・法22条地域等に適用される壁の不燃・防火要件を配慮する。

屋根材:山形鋼製折版を基本として、連結、増設、解体時の取り外し、再取り付けが容易な計画とする。

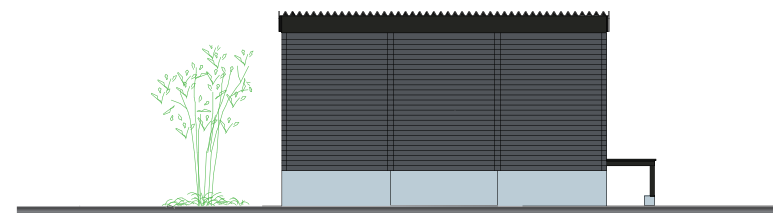
今回の試作では、基本モジュール2組(Aタイプ、Bタイプ)を製作し、接続、分離、運搬、再接続の作業を実際に行い、
 設計条件等の確認を行う。



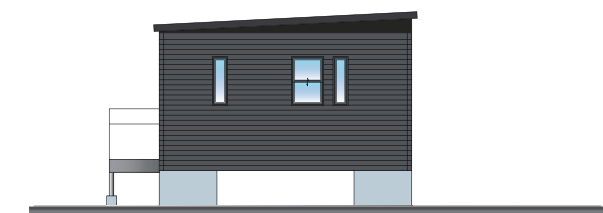
南立面図 S=1/100



西立面図 S=1/100



北立面図 S=1/100



東立面図 S=1/100

愛媛県補助金事業

平成26年度「新たな県産材利用促進事業」に選定された

「愛媛モクテナー」 接合が完了しました



フォークリフトで運べるサイズと重量で計画した、新たな「応急仮設住宅」です
3連結の「応急仮設住宅」のセッティングを3月4日、5日に行いました。